

世界遺産通信

IN 本宮中学校

～世界遺産学習全国サミット inたなべ～

vol.4

令和5年7月

和歌山県世界遺産センター発行



地域と学校をつなぐきっかけ

田辺市立本宮中学校で6月22日(木)に、中学1年生と地域の方々13名が混ざり合うトークフォークダンスが行われました。今回の、ファシリテーターは、TETAU（テタウ）の山本さんです。内容は、お互いを知ることから始まり、20年後の本宮に残したいもの、守りたいものについて考えを伝えあいました。時には真剣な眼差しで話し合い、時には笑いあい、終始良い雰囲気です。1時間があったという間に過ぎました。

熊野古道や小学校の語り部、自然を残したいという意見があり、子供も大人も地域に対しての想いを持って日々を過ごしていることが分かり嬉しい気持ちになりました。みんなで地域を作るきっかけになったのではないのでしょうか。

ワークショップに参加しての感想



色々な大人の人と話す機会がないので話ができてよかったです。（本宮中生徒）

コミュニケーションは、情報交換の場でもあり、人の考え方を分かち合える場だと思った。（本宮中生徒）

答えは1つだけじゃないということ覚えておきたい。

（本宮中生徒）

TETAU山本さんの話

地域や様々な課題や問題、困りごとを対話の中から解決策を見出す取り組みを行なっています。本宮中学校の生徒の皆さんと地域の大人とが対話している様子を間近で見させていただきました。キラキラした眼差しには、自分の話を自ら話せる事の喜びを感じていただいたように思います。これからも、対話を通じて様々な課題に挑戦してもらえると嬉しいです。また一緒に話をしましょう。

外国人観光客が思う熊野の魅力とは

トークフォークダンス終了後は、グループに分かれてワークショップ。内容は、外国人観光客がなぜ本宮に来るのか？インタビューをする際にどんなことを聞いてみたいか？をグループのメンバーで考えました。観光客の目線になって仮説を立ててみると本宮の魅力についての意見がたくさん出てきたり、共感しあう姿があったりと、良い時間になったと思います。ワーク終了後、各グループでまとめたことが発表されました。今後に生かされることを期待しています。



グループ別にワークを行っている様子